

5-3-2 大学職員情報化研究講習会

<事業計画>

私立大学職員の ICT 活用能力の開発・強化を支援するため、大学・短期大学の職員を対象に「大学職員情報化研究講習会」を情報提供及び DX に向けた実現構想のグループ討議を 11 月に 2 日間実施し、業務に直結する知識・理解の獲得と意見交換による実践的な考察力の促進を目指す。情報提供の内容としては、例えば、ICT 利活用の意義・好事例、DX に向けた学修支援環境(LMS)の取組み、学修支援を最適化する AI 活用等の取組み、オンラインによる就活支援対策、学生同士が交流する場のデザインと心のアフターケア、教学 IR システムの整備と活用、働き方改革・業務改革に求められる RPA 活用(ロボティック・プロセス・オートメーション)などが考えられる。

<事業の実施結果>

「大学職員情報化研究講習会運営委員会」を継続設置し、「大学職員情報化研究講習会」を 11 月にオンラインで開催した。以下に、委員会及び研究講習会の活動を報告する。

大学職員情報化研修講習会運営委員会

2022 年(令和 4 年)8 月 2 日、10 月 3 日、2023 年(令和 5 年)2 月 6 日に平均 12 名が出席して 3 回開催し、開催要項の策定、実施準備、開催結果の振り返りを行った。

(1) 開催要項の策定

11 月 15 日・16 日の 2 日間オンラインで、以下のようなプログラムで事前研修、全体会、グループ討議を実施することにした。

- ① 昨年度までは、従来の基礎講習コースと ICT 活用コースをそれぞれ開催していたが、基礎講習コース参加者が減少傾向にあることから、今年度は 1 コースに統合し、グループ討議参加の有無により、1 日コースと 2 日コースを設定し、「大学 DX 化に向けた取組みを考える」をテーマに実施することにした。
- ② 情報提供は、DX 化に向けた取組みを中心に「学修者本位の教育の実現」、「スマートキャンパス構想」、「医療系の学びにおける DX 推進」、「大学体験価値モデル」、「RPA の活用・効果」、「大学データの収集・分析」、「セキュリティ対策の基礎知識」を行うこととした。
- ③ 情報提供の後の 1 日コースでは、情報提供に関心ある課題について各参加者から感想・意見を受ける自由な討議の場をフリーディスカッションとして設置することにした。また、2 日コースでは、教育改革 DX、学生支援改革 DX、業務改革 DX について、自らがどのように関与すべきか、ICT を利活用した望ましい構想案を作り、発表・相互評価を行うこととして、以下のように開催要項を策定した。

2022 年度大学職員情報化研究講習会開催要項

「大学 DX 化に向けた取組みを考える」

1. 開催趣旨

学修者本位の教育への転換、質の向上を目指した新しい学びの創出、学修成果の質保証に向けた教学マネジメント確立の対応が急がれています。

ICT を駆使して教育の手法や仕組み、教職員の意識改革、学生一人ひとりに応じた学修支援を大学全体の問題として捉え、教育改革 DX、学生支援改革 DX、業務改革 DX に向けた取組みを着実に実行していくことが課題となっています。

そこで本研究講習会では、DX 化に向けた取組み情報を提供し、その上でフリーディスカッションを行うコースと、大学改革を目指した DX の構想案を提案するグループ討議のコースに分けて、DX への取組みと課題について理解の深化を図ります。

2. 対象者：私立大学・短期大学に所属する職員、賛助会員企業の社員(1 日コースのみ)

3. 日程：

- (1) 1日コース：情報提供とフリーディスカッション
11月15日(火)9時30分～15時30分
- (2) 2日コース：情報提供とグループ討議
11月15日(火)9時30分～17時、16日(水)9時30分～17時

4. 会場：Zoom 会議室

5. プログラム概要

(1) 情報提供 15日 9:30～13:45

- ① 開会挨拶
山名 早人 氏(早稲田大学理事、運営委員会担当理事)
- ② イントロダクション「大学改革 DX に向けた職員の役割」
木村 増夫 氏(上智学院理事、運営委員会委員長)
- ③ LMS の高度化と学修データ統合システムによる学修者本位の教育の実現
熊本 悦子 氏(神戸大学情報基盤センター教授)
- ④ 教育 DX に向けたスマートキャンパス構想
藤田 高夫 氏(関西大学副学長)
- ⑤ 学修課程・成果の可視化を目的とした医療系の学びにおける DX 推進
瀬戸 僚馬 氏(東京医療保険大学学長戦略本部教授)
- ⑥ 大学体験価値モデルの創造を目指して
寺澤 武 氏(桜美林大学学長室)
- ⑦ 創造的業務への移行を目指した RPA の活用・効果
三原 あや 氏(立命館大学財務部財務経理課長)
- ⑧ 大学データの収集・前処理から分析、結果の共有まで：そして価値創造へ
鎌田 浩史 氏(上智学院 IR 推進室チーフリーダー/上智大学基盤教育センター講師)
- ⑨ サイバー攻撃のリスクとセキュリティ対策の基礎知識
松坂 志 氏(情報処理推進機構セキュリティ対策推進部)

(2) フリーディスカッション(1日コース)15日 13:55～15:30

部門・大学規模などを参考にグループ分けを行い、情報提供の関心ある課題について各参加者から感想・意見を受け、自由な討議の場を設定します。

(3) グループ討議(2日コース)15日 13:55～17:00、16日 9:30～17:00

グループ討議では、①教育改革に向けた DX (デジタルトランスフォーメーション)、②学生支援改革に向けた DX、③業務改革に向けた DX について、具体的な課題を絞り込み、自らがどのように関与すべきか、ICT を道具として利活用した望ましい改善案の提言作りを行い、グループ発表・相互評価を通じて、主体的な考察力、イノベーションに取り組む姿勢の獲得を目指します。

① 事前研修

グループ討議に向けて、グループ内での事前意識合わせを行うため、事前に自己紹介シートを交換いただきます。

② 情報提供の振り返り

情報提供で特に重要と思った内容についてホワイトボードに記入し、ICT を利活用する意義・重要性についてグループ内で共有します。

③ 課題の洗い出し、解決策の構想を書き出し

教育改革に向けた DX、学生支援改革に向けた DX、業務改革に向けた DX の観点から、社会の変化に対応した大学教育・大学運営の在り方について、課題の洗い出し、解決策の構想を Web に掲載して掲示板で意見をうかがいます。

④ 発表・相互評価

掲示板の意見を踏まえて振り返りを行い、解決策の実現可能性を含めて構想をとりまとめ、オンラインで発表し、意見交換を行います。

⑤ 事後研修

グループ討議の成果、本講習会に参加して獲得したこと、今後 ICT をどのように業務に活かしていくか等についてとりまとめたレポート(Web 回答)を提出していただきます。

(2) 実施結果

35 大学 1 賛助会員から 66 名(1 日コース 44 名・2 日コース 22 名)の参加があった。以下に、実施結果の概要を報告する。

1. 情報提供

DX 化に向けた取組み、データの取扱い、情報セキュリティについて 9 件の情報提供を行い、ICT を駆使して教育の手法や仕組み、教職員の意識改革、学生一人ひとりに応じた学修支援に向けて理解の共有を図った。

2. 1 日コースのフリーディスカッション

情報提供の感想・意見や自大学の取組み・課題など、参加者間で情報共有する新たな試みとして設定した。前半は部門を混合して 5 グループ、後半は所属部門別の 3 グループに分かれ各 45 分、計 90 分間実施した。

ディスカッションでは、「同じ医療系大学として同様の悩みを共有できる内容であった」、「RPA 運用による労働時間の削減の取組み事例は興味深かった」、「施設設備が機材先行だけでなく活用が大事という点が印象に残った」、「遠隔授業の方法や LMS・動画配信の仕組みの話題が参考になった」、「ペーパーレス化の進捗状況・課題が聞けた」など積極的な意見交換が行われた。

3. 2 日コースのグループ討議

グループ討議は、4 グループに分かれ、「教育改革 DX」が 2 グループ、「学生支援改革 DX」と「業務改革 DX」が各 1 グループであった。具体的には、①形骸化しがちなポートフォリオを学修以外の情報や AI や教員によるフィードバック機能を実装することにより学生の主体性を引き出す提案、②学生一人ひとりに合わせた AI の導入や VR・メタバースを活用した新しい学びの提案、③ネット上仮想空間を用いた学生とのコミュニケーション円滑化プロジェクトの提案、④学生目線と組織目線に分けたチャットボットの導入による属人化を解消する DX の提案が行われた。

4. 参加者アンケートの一部紹介

- ① 情報関係に疎いため参加まで不安だったが、講習会では大学の DX・ICT 活用の現状とトレンドが理解できた。
- ② 他大学の現状等を知る良いきっかけとなった。
- ③ オンラインでのグループ討議であったが、活発な議論と情報交換ができた。
- ④ 討議を通じて自分の視点だけでは見えない気づかないことがあり、多角的な視点を持てるようになりたいと感じた。
- ⑤ 対面の方が進行しやすく、且つ議論が活発化しやすいと感じた。
- ⑥ DX 推進には、個々人の DX に対する理解と日々の情報収集の継続が必要であると感じており、新しい視点の獲得と今後の業務への刺激になった。

5. 次年度に向けた運営委員から意見の一部紹介

- ① 情報提供は好評だったが、グループ分けは、議論促進のために部署を考慮するなど工夫が必要ではないか。
- ② オンラインの割には積極的に取組む姿勢が感じられたが、経験年数に差があるグループは討論で噛み合わない部分もあり、コースを統合した課題もあった。
- ③ 講習内容は、スキルが身に付く演習型の研修ができないか。また、セキュリティや個人情報に関連する情報提供は必要ではないか。
- ④ どこまで踏み込んでサポートすべきだったか悩みどころであった。参加者を含めたコミュニケーションはオンラインの限界があるとの意見もあり、基礎講習コースだけでも対面での研修形態を検討することにした。

なお、開催結果の詳細は、巻末の 2022 年度事業報告書の附属明細書【2-7】を参照されたい。